

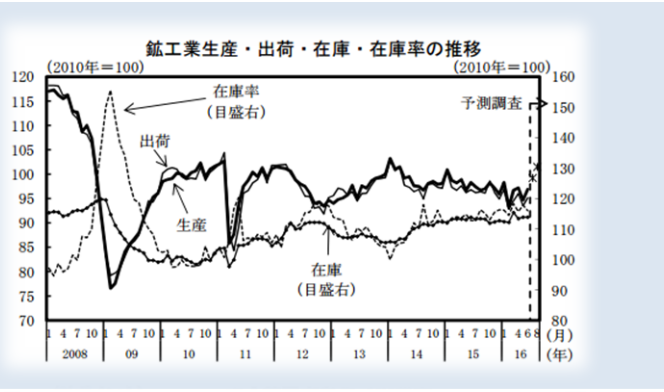
今月の経済動向（平成28年8月）

● 月例経済報告

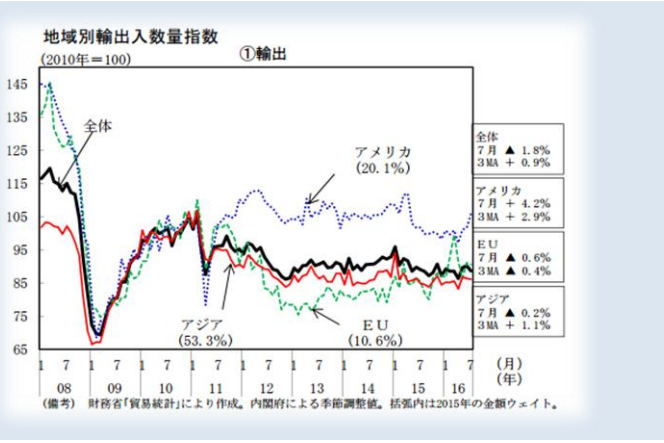
<p>基調判断</p>	<p>景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、雇用・所得環境の改善が続かなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待される。</p>	
<p>個人消費</p>	<p>消費者マインドに足踏みがみられるなか、おおむね横ばいとなっている。</p>	
<p>設備投資</p>	<p>持ち直しの動きがみられる。</p>	<p>(備考) 1. 財務省「法人企業統計季報」、内閣府「国民経済計算」により作成。 2. 実質値は、QE設備投資デフレーターによる試算値。</p>
<p>住宅建設</p>	<p>持ち直しの動きがみられる。</p>	
<p>雇用</p>	<p>改善している。</p>	

[月例経済報告：内閣府](#)

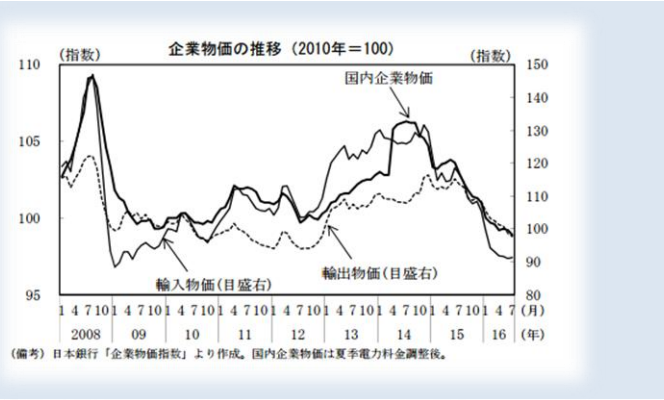
生産
横ばいとなっている。



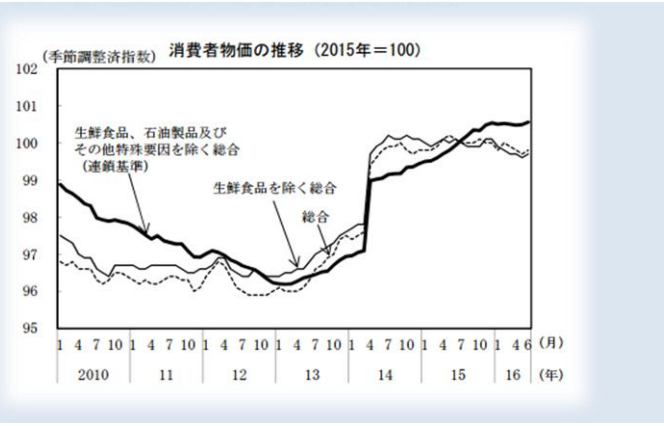
輸出
おおむね横ばいとなっている。



国内企業物価
このところ下落テンポが鈍化している。



消費者物価
横ばいとなっている。



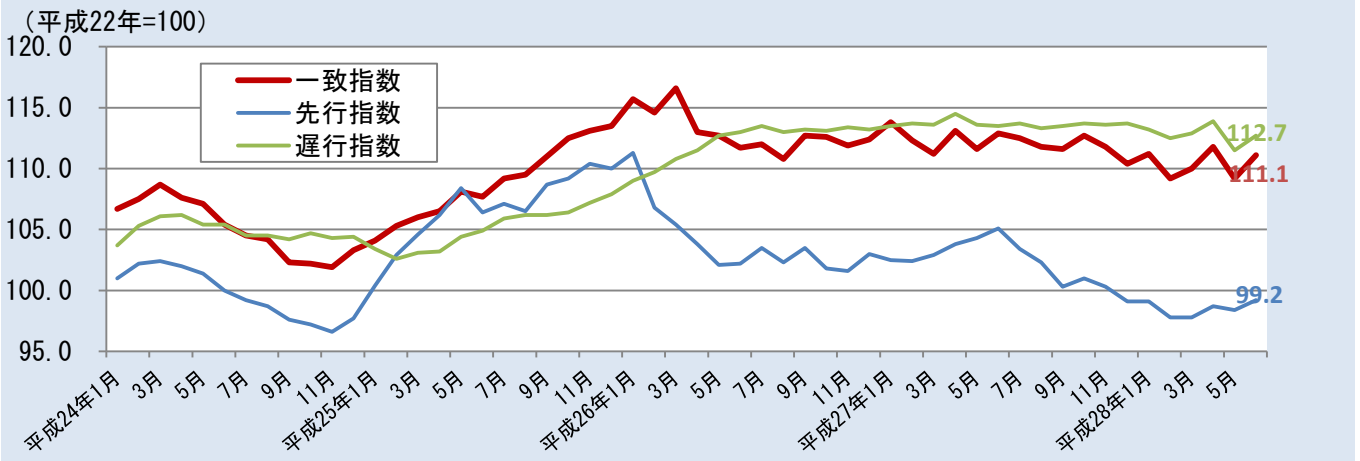
海外経済
弱さがみられるものの、全体としては緩やかに回復している。

[月例経済報告：内閣府](#)

● 景気動向指数（平成28年6月）

平成28年6月のCI一致指数は前月より1.9ポイント高い111.1ポイントとなった。CI先行指数は前月より0.8ポイント高い99.2ポイント、遅行指数は前月より1.2ポイント高い112.7ポイントとなった。
景気の基調判断(CI一致指数)は、「足踏みを示している」を据え置いた。

・ CIの推移



[景気動向指数：内閣府](#)